# 令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　**理　科**＞

小平市立小平第五中学校

**【生徒の実態】**

| | 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 |
|---|---|---|---|
| 学力分析 | 実験をする前に結果を予想する場面で、主体的に考えようとする生徒が非常に多い中、しっかりとした根拠をもっていても、それをうまく言語化できる力がまだ育っていない生徒も一定数いる。 | 定期試験の平均点は 6 割程度となっている。自分の考えを説明し記述の問題で苦手とする生徒が多い。応用問題は正答率が低かった。 | 実験等の結果に正対し、自分で考えて記述することを苦手とする生徒が多い。また、既習事項の基礎基本の定着に課題があると考えられる。 |
| 学習状況 | 実験の後に作成するレポートは、半数以上の生徒が期限内に提出することができているが、その反面提出を忘れてしまう生徒も多く、家庭での授業の復習が定着していないように感じる。 | 教科書の単元末に自分の考えをまとめ記述する問題があり授業中に取り組んでいるが進みが遅い。授業中に問題集を取り組んでいるが積極的に取り組む姿勢がみられる。 | 学習に意欲的に取り組もうとする生徒が多くみられる。ペアやグループワークでは、協力して学習を進めようとする姿勢がみられる。しかし、家庭学習に関しては生徒によって差が大きいと感じる。 |
| 生徒アンケートの結果より | 最もポイントが低い質問項目は、「授業後に、学んだ内容を復習したいと思える授業である」であったことから、前項とも共通するが、家庭学習を促進できるような授業にすることが課題であると考える。 | 項目 2 から項目７で肯定的な回答が４割となっている。 | 全ての項目で 9 割が肯定的な回答となっている。その一方で、項目 5 と項目 7 に関しては、肯定的な回答が 92%台であり、その他の項目と比較して低い値であった。 |

**【授業改善の手立て】**

| | 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 |
|---|---|---|---|
| 改善計画 | 思考課題について考えた際に、さらに発展的な内容や、それに関する内容の小さな発問や課題を与えることにより、家庭でも学習したくなる授業を目指す。 | 教科書にある動画を多く活用して学習の定着を図る。基礎事項の確認のため問題演習を増やす。 | デジタル教材を活用し、課題の定期的な配信を行うことで、家庭学習を促し学習の定着を図る。また、問いに対する答え方や文章の書き方などの型を定着させる。 |
| 評価方法 | 次回の授業改善アンケートの結果を確認する。また、生徒のノートを点検するときに、上記の課題等について考えたり調べたりしているかを確認する。 | 小テストを行い学習の定着をこまめに確認する。実験等のプリントの考察やまとめで自分の考えが書けているか確認する。 | デジタル教材の活用状況を定期的に確認するとともに、小テストを行うことで、学習の定着を確認する。また、実験等のプリントの結果や考察などを確認する。 |